

令和 4 年度のアサリ放流が終了しました

当協会ではアサリの放流事業を昭和 59 年度から実施しており、今年度も東京湾奥の多摩川河口、羽田沖浅場、三枚洲周辺に漁業協同組合の協力を得てアサリを合計 51.2t 放流しました(図 1～3、表 1)。

また、アサリが棲みやすい漁場環境を作るため放流の前後には、桁網や腰巻籠を用いて、年度末までに三か所の浅場で延べ235ha 海底耕耘を行います。

アサリの漁獲量は全国的に減っており、東京湾奥も例外ではありません。アサリ漁獲量減少の原因は特定されていませんが、アサリの生息に適した砂地の減少、夏期の貧酸素水塊の影響やアカエイやクロダイによる食害なども考えられます。当協会では以前のようにアサリが獲れる海の復活に向けて事業を継続していきます。



図 1 放流及び海底耕耘の場所



図 2 アサリ放流の様子
(左：羽田沖浅場 6 月)



図 3 船に積み込まれる放流アサリ
(左：多摩川河口 9 月、右：三枚洲 11 月)

表 1 令和 4 年度 アサリ放流実績 (トン)

放流場所 \ 月	4月	6月	9月	10月	11月	計
三枚洲	8	10			10	28
羽田沖浅場		7.2				7.2
多摩川河口			8	8		16
計	8	17.2	8	8	10	51.2